

意識改革と人材育成を

まずは自ら動く／町長



こまつ たかし 議員
小松 孝年

② 専門的な分野では、外部の人材を、積極的に取り入れ役割の分担を確立し、目的の達成を目指すことが最も効率がよく成功率も高い。
今後、地域主権改革の一括交付金化に向けての準備はできているか。

問

① 地方分権から地域主権改革に変わり、行政職員の意識が町の方向性を大きく左右する。我々議員にも言えることだが、新しい事に取り組んでいく意欲と、能力、行動力が必要であり、最後まで取り組む責任感と判断力を求められる。これは、行政職員が当然もつべき姿勢であると思う。

黒潮町は守りから攻めへ、職員は事務型から現場型へ変らなければならぬと思うが町長の考えを問う。

答

大西町長
植田副町長

① 職員の意識改革人材育成は非常に大事と認識している。

地域主権時代にあつては、地域の住民が、自らの意思と責任で決定するということがあり、課題を見だし解決し、地域の福祉向上を図るには机上の考え方ではなく、職員自ら地域に出向き、地域の課題を発見しその解決策を考えていくことが非常に大事であ

る。現場を基本とした考え方を持つべきと考えているので、今後も地域を基本にした取り組みをしながら人材育成を図っていきたい。

云うだけでは組織は変わらない。まずはトップ自らが動かなければと考えている。

② 社会環境の変化が拙速な時代、それらにすべて対応できる職員の育成は容易ではない。特に規模の小さい自治体では、職員数が限られており1人が何役もこなしていかなければならないので専門分野の職員を育成することは大変難しい。町の職員だけでは対応が難しい事業、問題、課題には外部の人材活用も必要になる。専門的な知識を持った方の積極的な人材登用を考えていきたい。

まちづくりの基本は「人」。人が集まり、人が喜ぶことを考えることが必要。先月、高知ファイティングドッグスが大方球場で春季キャンプに入り、8月には公式戦も2試合組まれることが決定した。今後のまちづくりのイメージアップにつながり、栄養剤になると思う。

まちづくり

スポーツ振興とまちづくりは活用できると考える／町長

問

黒潮町のイベントは、住民の喜ぶイベントが少ないように思う。町内外から人が集まり住民に喜んでもらい、また子どもたちがこの町を誇りに思えるような町にするためにこのような振興策が必要と思うが、スポーツ振興とまちづくりの関係をどう考えるか。

答

大西町長
森下産業推進室長

スポーツの役割は、健康の維持増進、高齢者等の介護予防、青少年の健全育成、地域の連帯感の醸成等、町民の健康および福祉の増進に資することだけではなく、今回の高知ファイティングドッグスの春季キャンプは、民間の方々の取り組みにより実現し、まちづくりの観点から見ると官民共同による一体となった取り組みで成果があったと思う。

特に野球教室はもとより砂浜清掃ボランティア、入野海岸での松の記念植樹など、今後の青少年の健全育成に資することができると思う。

また砂浜トレーニングについても、入野海岸と絡めた観光ピリアルにつながり、今後のまちづくりに活用できると思う。他のイベントについても住民に喜んでいただけるイベントを企画実施していきたいと考えている。